



風力と太陽光を融合

オリコンサルグローバルら

サウジで再エネ発電実証

オリエンタルコンサルタントグローバルと東芝エネルギー・システムズ（東芝ESS、川崎市幸区、島田太郎社長）は、サウジアラビアで「ハイブリッド再エネ発電システム」の実証事業に取り組んでいる。風力発電と太陽光発電で生み出した再生可能エネルギーを組み合わせ、蓄電池システム（EMS）で

統合制御。電力が安定供給できる仕組みを構築する。実証事業はサウジアラビアの国営企業サウジ・エレクトリシティ・カンパニー（SEC）と協力し、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援で実施している。実証期間は2028年5月まで。

SECがサウジアラビアで蓄電池システムを設置し、統合制御するEMSも導入する。蓄電池システムには、繰り返し充放電しても劣化にくく、再エネ発電量の変動を抑えられる出力型蓄電池と、電力ピークシフトに適した容量型蓄電池の2種類を採用。長期にわたって使えるようにした。

実証事業を通じて出力変動が激しい再エネの安定資本化や再エネ余剰電力の活用を実現し、既設変電所の負荷を抑えられるようになる。温室効果ガス（GHG）削減量のモニタリングも行う。

オリコンサルグローバルは実証設備の全体設計と供給、GHG削減量と導入設備の経済性の評価を行う。東芝ESSは国内外で蓄積したEMSと蓄電池システムの知見を実証設備の設計に生かし、実証事業で得られるデータも解析する。

実証事業のイメージ（オリコンサルグローバル提供）